

中西悟志助教授の逝去を悼む

日本福祉大学経済学部長 三輪 憲 次

平成 13 年 5 月 25 日、本学助教授、中西悟志氏が逝去されました。故中西助教授は、平成 10 年に医療経済学、公共経済学の専門家として本学経済学部の教員として迎えられ、その分野での将来を嘱望された研究者でした。

近年、中西助教授は研究の中心を「医療の経済的側面を分析する」ことに置かれていました。医療を医療サービスの生産という視点から捉え、病院、老人保健施設の生産技術や費用構造に関する研究、介護保険の政策評価など、多くの研究を手がけられました。医療を経済理論に則って分析する研究は、経済学の中では比較的新しい領域であり、自ら開拓者となって切り開いてゆかなければならないことの多い分野ですが、中西助教授はその第一線で着実に実績をあげて来られました。少子高齢化が全日本的課題とされ、保健医療と福祉の連携やそれを支える社会・経済的な条件や制度が重視される時代の到来のなかで、中西助教授は、このような社会的要請を強く意識されておりました。

研究熱心な中西助教授は、大学ばかりではなく社会的な貢献の観点から、多くの仕事を引き受けられる日々となっており、ときには寝食を忘れて研究に没頭されることもあったやに伺っております。このことが自らの体を酷使され、このご不幸を招いてしまったとすれば、まことに残念でなりません。

中西助教授はまた、学生指導においても優しい、時には厳しい兄貴分のような先生でした。本年は全国学生経済ゼミナールが本学で開催されますが、中西ゼミは、その中心を担う有力なゼミでした。大学の委員会を始めとする業務においても、教務委員をはじめとして教育改革や学生指導などの仕事で活躍され、柔軟な発想と溢れんばかりのアイデアを披瀝され、その才能の豊かさを垣間見たように思います。

昭和 36 年生まれの中西助教授は、やっと不惑の年を迎えられたばかりであり、これからが研究者として最も輝くときを迎えようとしていました。このようなときに、あまりにも早いお別れをせねばならないのは痛恨の極みであります。われわれはここに中西助教授とともに生き、働き、研究した思い出とともに追悼論集を刊行し、中西助教授との永遠の絆としたいと思います。

平成 14 年 1 月 31 日